

磐城中正新報

發行日毎月一回 一日發行
定額 郵税共 一部金十錢
廣告料普通面拾三文字一行
一回五拾錢 場所指定十錢増
印刷人 安澤榮作
發行所 福島縣平市磐城跡四
城中正新報社

新聞用紙問題の裏面

各紙共擴張紙廢止の悲況

新聞界最大の問題と云へば何をおいても用紙問題である、從來日本の新聞界で使用してゐた新聞用紙は其七割が王子製紙其他で生産する國産紙で他の三割が加奈陀を始め諸外國からの輸入品であつた、其輸入品が爲替關係と經濟界が多少向上して來た關係で輸入困難となり、現在では殆んど不可能な状態となつて來た、しかも内地紙と比較すれば三四割も安かつた外紙が右の關係で遂に四五割も昂騰し、それも日本に入れる紙の量が非常に減少してしまつた、例へば金を積んでも全く半端のもの以外に輸入する事が出来なくなつて來たのである、斯る情勢に追詰められた外紙使用新聞社(東京では報知、都、毎夕、其他小新聞、地方では九州日報、台灣新民報、中國合同新聞を始め朝鮮では京城日報外全新聞)は個々王子製紙側と秘密裡に使用切替への潛航的交渉を開始したのは今年の三月頃であつた、しかし王子製紙としても内地の高い時代には安い外紙を使用して來た連中であり、又一新聞の用紙を切替へれば、結局全外國シ會社も切替へる事になれば現在の生産能力では三割の不足を告げる事になるのである、外紙使用社の交渉は全部一蹴

は切替へに應じてよいとの言葉を與へたのである、王子から斯る言葉を得た一行は部下各社を説き及ぼし、その節約を要求したので各社とも擴張を中止、増頁自制、九月からは十四段制を實施して二頁減頂することを承認し用紙節約更改には各社とも外シ入量の三割だけを弾き出す事になりこの運動に凱歌が揚がらんとしてゐるなど値上に脅ゆる各社と、使用する用紙が切れると鐵々のとの差こそあれ用紙問題は震災當時以上の深刻性を持つてゐる、用紙問題を深刻ならしめた原因の一つは讀賣新聞も責任の大半を負ふべき事を見逃す事は出来ない、王子は三年加奈陀から大量の外シを購入してこれを讀賣に使はせられたのである、内地に比較すれば安いので新聞の意氣天を衝く當時の事であるから、東京版だ、夕刊八頁だといふ幅を擴張し各紙を引きずつたのである、其結果は王子の生産力以上の使用量となつた、處が今年三月になつて其外シを使い果してしまふと今度は王子側で同社製のカミを讀賣に使はせられたのである、シ幅を多くして擴張シをバラ撒いてゐる上、讀賣に内地シを切替へたから内地シがどしどし減少し從來各シが三ヶ月間の使用出来る程のものに減つてゐる、斯く觀じれば各社は讀賣を巧みにまやつる王子製シのためにマンマ

と踊らされたといふより外なものである。

皇軍慰問費に
拾圓寄託

本郡好間村北好間字佐原新平君は去る廿八日書面の中に金拾圓を封入し自分は兵士になりたかつたが合格せず残念でたまらぬ、同級の者が軍務にあることが羨しいと云ふ意味を認め在滿支の皇軍慰問費の一部に資してほしいと東京日日新聞平通信部に寄託したとは近來の美談である

平市會の成立

正副議長並に
市參事會決定

三万二千市民特望の初市會は七月廿七日午後一時から開會全議員出席傍聴席も満員、開會と同時に年長者松崎松治氏を議長に推し假議長は萩原義雄氏に決し直ちに議長投票の結果野崎滿藏氏當選し、次に副議長投票の結果蓮沼龍輔氏當選し、午後三時半一時休議午後四時再會市參事會員を互選の結果左記の通り當選した

- 市會議長 野崎滿藏
市副議長 蓮沼龍輔
市參事會員 馬目雅治、矢吹初彌、藤田榮助、吉田五平、根本品藏、高橋龜松、萩原義雄、酒井清、松本徳一、佐藤幸太郎

暑中御伺

- 貴族院議員 金成通
衆議院議員 比佐昌平
縣會議員 野崎滿藏
平市會副議長 蓮沼龍輔
縣會議員 小野晋平
縣會議員 關内正一
縣會議員 小松章
縣會議員 馬目雅治
縣會議員 山野邊義政
縣會議員 鈴木庫左右
縣會議員 金子政通
縣會議員 佐藤幸太郎
縣會議員 矢吹龜作
縣會議員 古川傳一
縣會議員 小田吉治
縣會議員 鷺清昇
縣會議員 永山徳一
縣會議員 諸橋久太郎
縣會議員 諸橋元三郎

堀江工業株式會社
鈴木唯治
平市極小路壹番地

- 磐城炭礦株式會社礦業所
入山探炭株式會社坑務所
古河石炭礦業好間礦業所
白水炭礦會
福島縣町村長會石城支會
二本松電氣株式會社
小名濱支店
石城郡銀行組合
各學校長會
石城郡内
錦消防組頭 山崎登
植田消防組頭 坂本龜太郎
内郷消防組頭 佐藤三平
川前消防組頭 永山忠二
九品寺 四家又一
遠藤心光
湯本信用無盡株式會社
片倉製糸株式會社

暑中御伺

石城郡勿來驛前

山添炭礦合資會社
電話一〇二番

石城郡勿來驛前

金山炭礦鑛業所
電話六一番

石城郡川部村

江藤炭礦鑛業所
電話四三番

平市城山藥湯聚樂園

園主飯田近治
電話一〇九番

河田鐵工場
平市七丁目

土木建築請負業
強口唯七郎
平市田町 電話二八二番

山崎合名會社
好間軌道株式會社

自動車部
電話四二三番

平播植小路

武藏鐵工所
所主 遠山稻吉

平播米所

長瀬富彌
平市材木町 電話三三一番

宮下秀貫
內郷村 宮

職業紹介業
木村仁吉
湯本町上町

平市四丁目

鈴木自動車部
電話二二七番

石川八郎
湯本町天王崎

平市北目通り今野田

久保木商會

大日本電力平營業所

平藝妓屋組合

平運輸株式會社

湯本藝妓屋組合

湯本溫泉旅館料理屋組合

平紺屋町(電話二三番)

上原家政婦會
會長 上原通子

平市二丁目

三井タクシー
電話六八五番

平市七丁目

工藤鑄造所
所主 工藤源吉

平市古鍛冶町

木澤常松

平市二丁目(平館前)

會田美粧院
院長 會田タミ

平市三丁目

ふかや洋服店
電話二〇三番

平市四丁目

關内藥局
電話四〇番

平市古鍛冶町

大谷要次郎

各國石材美術彫刻

山野邊石材店
平市紺屋町

裁縫教授

草野市子
小川郷驛前

渡邊德之助
植田町

平庶民金庫
有限責任信用組合

小間物化粧品商

イワキヤ洋品店
平播植小路

丸はん
平市三丁目

薄硝子製饅所
電話六九七番

片寄商店
內郷村高坂

山田屋本館別館
植田町

氷水の元祖
藤市
電話三〇五番

割烹末廣
平市田町

方圓堂高山
平判彫刻一式
平市二丁目

田邊機械店
店主 田邊忠造

クリーニング
海老原洗濯店
平市播植小路

內外科一般

野村醫院
湯本町笠井

秋山材木店
植田町 電話六二番

痲病消渴に神効ある濟淋

水野藥局
平市二丁目 電話六九九番

明治屋
日用品百貨

博盛堂
松本幸松
平市播植小路

大一屋商店
平市二丁目 電話一三三番

廣木商店
店主 廣木正一

仙臺屋靴店
靴製造販賣

馬目合名會社
近盛 石城郡內郷村

古市探堀所
粘土 石炭 古市喜三郎

丸一屋商店
小名濱町 電話二〇五番

大平屋藥店
平市一丁目 電話六四二番

渡邊鐵工所
平市大町二七